法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

関連性理論におけるルビの分析

REN, Li / 任, 麗

(出版者 / Publisher)
法政大学大学院　国際日本学インスティテュート専攻委員会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
国際日本学論叢 / 国際日本学論叢
(巻 / Volume)
8
(開始ページ / Start Page)
85
(終了ページ / End Page)
100
(発行年 / Year)
2011-03-22
(URL)
https://doi.org/10.15002/00007112

Hosei University Repository

平成22年度　国際日本学論叢第８号　2011年３月22日発行　抜刷

関連性理論におけるルビの分析

長春理工大学日本語学部講師
任　　麗

Hosei University Repository

関連性理論におけるルビの分析

長春理工大学日本語学部講師
任　　麗

はじめに

関連性理論[1]の立ち遅れが目立つ現代言語研究の中にあって、とりわけその傾向が顕著な分野の一つに、ルビの問題がある。

漢字は「図」のような連関において理解されているため、日本語を母語とする話者は漢字を見れば大体の意味の見当をつけることができる。確かに、漢字の音がわからなくてもあまり支障がないという考えを持つ人がいる。一方、人間の認知という側面から、「必ずしも音を介さなくてよい漢字の理解と必ず音を介する仮名の理解は、別々の回路で処理することができる」[2]という指摘もある。われわれの周囲に存在する情報は多種多様であり、認知の主体は関連性を持つ情報のみ処理することにより、効率的な情報処理を実現することができる。現在、関連性理論は人類学・心理学・言語学のほか、さまざまな分野に応用されつつある。

普段出版物の中で平仮名を使い、漢字の読み方を示すのがルビの働きである。しかしながら、漢字にだけでなく、平仮名またカタカナにルビを付けることも出てきたし、ルビも平仮名に限らず、漢字、カタカナ、英語も使用されている。

本論は関連性理論の枠組みの中で、ルビに注目し、その機能を分析する

Hosei University Repository

ことを目的とする。さらに、そのような表現を使うことで生まれる効果について考察する。

1．ルビについて

1．1　ルビとは

まず、ルビとはどのようなものであるかを確認しよう。辞書には、次のように定義されている。

> 振り仮名用の活字。また、振り仮名。英国でルビーとよばれた5.5ポイントの欧文活字の大きさが、和文で５号活字の振り仮名として用いた７号活字とほぼ等しかったところからいう。(『大辞林』)

文章にどれほどルビを振るかで、総ルビとパラルビに分けることができる。総ルビとは「文章中の全ての漢字に振り仮名が付いている」[3]ことで、パラルビとは「文中の一部の漢字にだけ振り仮名を付ける」[4]ことである。言語学者は従来ルビを付けるべきか否かということに関心が高く、結果としてルビ付けが消えずに使用されてきたのは事実である。現代の出版物では、一部の漢字にだけ振り仮名を付けるパラルビが多用されている。

1．2　『万葉集』でのルビ

『万葉集』では「宇」に「あめのした」というルビを付けた。本来ならば、「宇」に「あめのした」と言う読み方はないはずだが、このルビを使うことで、「宇」と言う簡単な一つの文字で広い意味を表すことができた。「あめのした」は、元々は「天の下」と書き、国土或いは「天下」を指す。「宇」は「宇宙」の「宇」であるだけに、「四方のはて」、「天地四方」と言う意味を持っている。すなわち、「宇」と「あめのした」はここで繋がる。

Hosei University Repository

「宇」と言う一つの字には「天下」やら「国土」等の広い意味が内包されている。「天皇」の字に「すめらみこと」とルビを付けたのも同じである。

このような用字法は、本来の訓によってではなく、語の表す意味によって漢字を当てるものである。時には単なる戯れのため、仮名を付けることもある。「金（あき）」、「黄変（もみつ）」、「数多（あまねし）」など、個人によって多様な使い方があり、そういう意味で戯言と呼ぶこともある。

１．３　現代におけるルビの使い方

ルビの使い方は、長い年月を経て様々に変化しており、現代のルビにはより多様な機能がある。

総ルビとは全ての漢字に振り仮名を付けることで、読者が文章を無難に読むことはできるが、その反面文字の組版が込んでいて、目障りになることもある。そのため、ルビも読者に合わせて数を調整する。例えば、漢字量の限られている小学生向けの絵本や教科書のような書物はなるべくルビを多く付けるようにしているが、大衆向けの出版物はルビをめったにつけないようにする。

現在の書物や文字類などの出版物でルビ使いの多くはやはり漢字の本来の読み方を示すのである。この場合は難読字や普段あまり使われていない字に付けるルビが多い。下記の例１と例２は単にその漢字の読み方を示すためである。

例１：エジプトの時代から続いた輪廻（りんね）。(5)

例２：「鶺鴒（せきれい）の間でございます。」(6)

上述のように、現在のルビは漢字だけに付けるとも限らないし、平仮名で付けるとも限らない。又、漢字本来の読み方でないルビの使い方も数多くある。元々日本の読み物はルビを付けるという特徴があるので、二重ト

Hosei University Repository

ラック或いは二重字幕のある映画を見ているような感じがする。その時、元の読み方でないルビを付けることで、同時に異なるイメージを伝えることもできる。そして、こういう音と形、意味と形の差異により、奇妙な雰囲気や語感も出てきた。

例えば、「運命(さだめ)」、「永遠(とわ)」、「他人(ひと)」、「宇宙(そら)」、「時間(とき)」、「瞬間(とき)」などのような使い方である。これらのルビと下の漢字は意味上の繋がりはあるが、読み方としては正しくない。「宇宙(そら)」では「そら」と読みながら、「宇宙」という字を直接目で見ることで、ただの空(そら)よりもっと広く雄大な感じがする。また、瞬間(とき)では難しい読み方の「しゅんかん」で、より読みやすく和語の「とき」を使うことで読者に意味も語感も伝えている。

翟东娜・潘钧の『日語概論』は次のように述べている。振り仮名の機能は漢字の読み方を示すのが普通だが、時には振り仮名が言葉の読み方を示し、漢字は言葉の意味を示すこともある。すなわち、振り仮名であるルビの部分が言葉の本体であり、漢字はたんなる視覚的刺激であるといえる(7)。

また、生活上漢字の正しい読み方を無視し、慣れた読み方を使う場合もある。

例３：「それとも、元彼女(モトカノ)なんかに、もう用はない？」(8)

本来、「元彼女」は「もとかのじょ」と読むべきである。だが、普段の生活の中では「もとかのじょ」のような正統的な読み方より、略して「もとかの」と言ってしまう場合が多い。故に、直接「元彼女(モトカノ)」と決め付けた方が一層現実味があり、普段の会話として大衆にも受け入れられやすいといえるだろう。

一二三

Hosei University Repository

2．関連性理論[9]

2．1　関連性理論とは

1960年代の終わりごろ、イギリスの言語学者ポール・グライス（Paul Gricee）がことばの文字通りの意味に対し、その場その場のコンテクストで生じる意味を「会話推意（Conversational Implicature）」[10]と名づけ、それを生み出す基盤として「協調の原則（Co-operative Principle）」[11]を提唱した。

グライスの提案は多くの言語学者の注目を集め、会話の推意を研究する学問、すなわち語用論が大きく発展する契機となった。「協調の原理」は、会話のやりとりに関する暗黙の原則であり、グライスは「会話の公理（Maxims）」[12]と呼び、下位の原則を４つ提案した。

1970年代に、ディアドリ・ウィルソン（Deirdre Wilson）とダン・スペルベル（Dan Sperber）が４つの公理のうちの１つ、「関係の公理（Maxim of Relation）」、“Make your contribution relevant.”（会話の貢献に関連性を持たせよ）のみに注目し、それを発展させた「関連性の原理」を基礎とした「関連性理論（relevance theory）」を提案した。関連性理論は数多くの言語学者に受け入れられ、最近は文学批評や文体論の研究にも用いられるようになってきた。

関連性理論は、発話生成・理解を推論規則と関連性の原則によって支配されているという観点に立ち、発話生成・理解のプロセスは、具体的な伝達の相互行為にかかわる経験から独立して存在する規則ないしは原則に基づくトップダウン的な情報処理のプロセスとみなされる[13]。

関連性理論には「すべての意図明示的伝達行為はその行為が関連性の見込みを生み出すという（伝達）原則」と「人間の認知は関連性が最大になるようにできているという一般的な（認知）原則」[14]の２つの原則がある。

Hosei University Repository

２．２　関連性の原理

関連性理論はどのような理論であるのか、基本的な概念である関連性の原理を概観してみよう。関連性の原理は２つあり、以下のように定義されている。

関連性の原理Ⅰ　認知の原理（Cognitive Principle of Relevance）
Human cognition tends to be geared to the maximization of relevance.
（Wilson & Sperber 1996）
（人間の認知は関連性を最大にするように働く性質を持つ：今井訳2001）

関連性の原理Ⅱ　伝達の原理（Communicative Principle of Relevance）
Every ostensive stimulus conveys a presumption of its own optimal relevance.
（全ての顕示的伝達行為は、それ自身が最適な関連性を持つことを当然視している：今井訳2001）

認知効果とは、新情報が入力された場合、もともとあった想定（頭の中にある考え）に、①文脈含意が加えられる、②既存の想定の強化、③既存の想定の削除の３つの影響がある場合に認知効果があると認められる。すなわち、これらの効果がない場合、人間は労力を使って認知しようとはしない。

また、あらゆる伝達行為は最適の関連性の見込みを伝達するものである。関連性の見込みとは、その伝達されたものには、受け手がそれを解釈する労力に見合う関連性があるということを保障しているということにある。最適ということばを使っているのは、発信者の能力において、受信者にとっては、処理労力ができる限り少ないという意味である。可能ないくつか

Hosei University Repository

の発話の中から聞き手にとって処理労力の少ない発話を選択するためには、発信者の側にある種の技能が要求される。

3．関連性理論によるルビの分析

上述のようにルビの使い方が多種多様であるため、具体的にどのような働きを持っているかを分析すれば、必ず作者の意図に辿り着けるのであろう。

われわれのまわりの環境にはいたるところに情報があり、われわれはその時に必要な情報を探す。ルビは下の文字には関連性があったから、すなわち認知効果とわかりやすさがあったから、有効な（必要な、役に立つ）情報として取り入れられたのである。われわれは役に立つ情報を捉えることができるのである[15]。

機能上、言葉とルビの間に説明提示等の関係を築くことで、分かりにくい言葉を簡単化し、言葉の本来指すものを分かりやすく指示することができる。次は、４つの機能に分けて検討しよう。

3．1　言葉の説明

例４：「――トランキライザー（精神安定剤）……？」[16]

主人公は警察と弁護士であるため、「精神安定剤」等には詳しいはずである。彼等は普段から「精神安定剤」のことを「トランキライザー」と呼んでいる。だが、私たち一般人としては「トランキライザー」と書いてあっても、それが何を指しているのかすぐには分からない。ルビで説明し、同義語で置き換えることで、読者に言葉の意味も伝えることができる。

例５：そこに現れた鵺（ぬえ）によって誘（いざな）われ彼は『あまつき』（ありえないことの起きる世界）の世へ――。[17]

Hosei University Repository

『あまつき』は高山しのぶ原作のファンタジー漫画の名前で、不思議な夢の世界のことである。あやかしが溢れる物語の展開する場所である江戸町で、主人公がタイムスリップしたのである。「彼が『あまつき』の世へ」と言われても初めてこの漫画を読む人はそれが何なのか分かるはずがない。ましてこの文は漫画の表紙にあり、一瞬にして分かるのは無理だということは言うまでもない。そこで「ありえないことの起きる世界」という説明を付けたのである。

ルビは下の文字には関連性があったから、「精神安定剤」と「ありえないことの起きる世界」のルビは有効な（必要な、役に立つ）情報として取り入れられたのである。読者は役に立つ情報を捉えることができるのである。すなわち、読者は関連する情報を生かことによって作者の意図を理解し、出版物を読み続けているのである。同じように、次の例を見よう。

例６：ねぇ…お父様（パパ）　その楽園ではどんな花が咲くの？[18]

娘が父親に話す場面である。漢字の「お父様」は正式的な呼び方を使いながら、「パパ」という子供のようなルビをつけるのである。「お父様」からはこの家族が教養のある家系だと推測できる。また「パパ」という呼び方から娘は未だに幼く、童心を保っており、父に対する愛着が含まれているということが示唆される。

例７：「尚書令丞の養父上（ちちうえ）は、秘書省の高官だ。…」[19]

小説の中で尚書令丞は養父のことを「ちちうえ」と呼んでいる。故に、他人も尚書令丞の話をする時に「尚書令丞のちちうえ」の呼び方を使う。すなわち、ルビで「ちちうえ」という呼び方を示しながら、「養父上」で二人の間に血縁関係はないこと、ただ養父と養子の関係だということを示

Hosei University Repository

している。

3．2　意味の縮小

関連性理論の基本的な主張は、「新情報、すなわち新たに提示された情報がコンテクストと相互作用し、認知効果を持つ場合にそのコンテクストにおいて関連性がある」というものである[20]。

例８：「今度の客（依頼人）、話が長くてなあ」[21]

客といえば、ただの友人や商売相手を指す可能性が高い。そのため、話し手がただ「客」と言って、聞き手がその場の状況について詳しくなければ、その「客」が何を指しているのか分かりかねない。だが「依頼人」とルビを付けることで、その「客」の身分が明らかになる上、話し手の職業が弁護士であるということも暗示する。ここでは「客」に「依頼人」というルビをつけて、意味を縮小したのである。

例９：肝心の神（デウス）さまもなして助けてくださらんとじゃろか[22]

ここでは、「神」に「ゼウス」というルビを付けることで、話し手が具体的な信仰まで暗示することもできた。また「神」という漢字を使うことで、視覚的な刺激も与えている。

このように、普段私たちは最適の関連性を当然視し、処理コストが最小になるような道をたどりながら認知効果を計算していると考えられている。すなわち、ルビによって「客」と「神」の本来の意味を縮小する機能がある。

Hosei University Repository

3．3　指示の役割

人間の認知という脳の働きは、労力を使って認知しようとするものである。発話者の伝達行為には、その労力に見合った認知効果が保障されているので、聞き手はその伝達された情報を受信しようとするのである。意味伝達が可能になるのは、お互いに同じ言語という記号を使っているからというだけでなく、話者が関連性を保証するため、聞き手が解釈しようとして関連する情報を頭の中で収集、分析するためである。

3．3．1　現場の指示

指示詞が発話の現場で知覚される対象を指し示して用いられる。ルビの現場指示の機能は以下の例を通じて分析することにする。

例10：「――妹（あの子）は他人とは違うから、お姉ちゃん（あなた）が助けてあげてね…」[23]

病で倒れた母が長女に話した場面である。病から回復した年少の娘のことを哀れと愛情を込め「あの子」と呼び、それに対し年長の娘とは直接向き合っているので、「あなた」と呼ぶ。二人の身分は漢字の指示どうりで明らかになる。限られた長さで、韻律を保ちながら人物関係やストーリの脈略を告げるのはとても難しいことである。だが、こうしてルビを振ることで、母の気持ちもその場の大体の状況も伝えることができる。

3．3．2　記憶の指示

発話者が過去に知覚体験した物事を、言語的なコンテクストにおいてあらかじめ言及することなく、指示詞によって直接的に指し示すことを記憶指示と呼ぶことにする。具体的には次のような例である。

Hosei University Repository

例11：「…なんとかエイを引っ張り出して、こっち(日本)に連れ戻したい」(24)

話し手はただ「こっち」だとしか言わなかったが、内包する意味は実は「日本」だったのである。「日本」のルビがなかったら、読者は話し手のいる部屋と勘違いする可能性もある。お互い同士言っていることが分かっているので、そこまで説明する必要がない。

小説の中でルビをつけることによって、人物がいる場所或いは人物の関係などを示すことができる。上の例で「あの子」や「あなた」も呼び方ではないかという疑問も出てくるかもしれない。だが「あの子」や「あなた」を使うと、その場面に限り指示詞の機能があると思われる。

3．4　時代背景・環境の提示

時代と場所によって物事に対する呼び方は異なるのは事実である。そこで、作者は物語の時代背景あるいは環境を伝達するため、その時代実際に使っている言葉を使用する。小説『SASRA』は幾つかの時代を貫いて展開する物語であるため、その機能を示すところが数多くある。

例12：客堂(きゃくしつ)の窓からも蓮池が見えたが、遠くから見ている分にはさほど怖くない。(25)

例13：火を灯した油燈の匂いが、牀榻(しんしつ)に満ちていた。(25)

例14：妓楼(ぎろう)の中院(なかにわ)では、早咲きの月季(バラ)が色を競っている。(27)

例12－14は古代中国編の内容である。「客堂」「牀榻」と「中院」は全部中国古代の言い方であるが、ルビで「きゃくしつ」「しんしつ」「なかにわ」という日本語の言い方が付されている。この表現は読者に中国古代の雰囲

Hosei University Repository

気を感じさせることができる。「月季」のような中国表現に「バラ」という日本人が馴染んだルビを使ったのも同じである。

例15：長い木の鞭を持った訓練士（ドクトル）の一人が、苛立たしげに吐き捨てる。[28]

例16：「…最高位剣闘士（プリームス・パールス）まで上り詰めれば、金も女も好きなだけ手に入るぞ。…」[29]

例17：クアディ族の故郷へ戻るために、解放の証である月桂冠（コローナ）と文字が刻まれた木製の剣（ルディス）を手に入れる。[30]

例15－17は古代ローマ編の内容である。「訓練士」、「最高位剣闘士」、「月桂冠」、「木製の剣」に付いている「ドクトル」、「プリームス・パールス」、「コローナ」、「ルディス」という言葉は日本語でもなければ、英語でもない。当時の言葉即ち古代ローマの言葉である。読み方は当時の言葉を使いながら、下は漢字で意味を示す。そういうことで読者にその時代の雰囲気を感じさせることができるのである。

例18：…時にはこの子は阿呆（アボン）ではないかと思われることもあった。[31]

例19：「兄（あん）しゃん。朝市の帰りは、ぜったい寄って」[32]

一一五　例18と例19は、小説の舞台は江戸末期から明治時代の初期にかけての長崎で、主人公のキクは浦上の出身である。その時代背景の中の人間はそれなりの言い方がある。「アボン」と「あんしゃん」という言葉はその地方の人でなければ理解できるはずがない。その時代と地方の特徴を表すこと

Hosei University Repository

になる。

また、『Sacrifice』という小説では、登場人物は作中に一貫して登場し、主人公たちは輪廻を重ねるたびに、「光」という名前を付けられる。名前の漢字は「光」でありながら、ルビだけがいつも変わっており、例えば、中世ヨーロッパ編では「リヒト」、インカ編では「ルス」、日本編ではまた日本語の読み方「ひかる」となっている。場所と時代によって名前の呼び方が変わることでルビも変わるということだ。

このように、ルビを使うことによって、物語の背景を提示し、その場の雰囲気を醸し出すことができる。また、作品全体からキーワードを提示する場合もある。キーワードは文章全体を読んだら自然に分かることでもあるが、ルビを見ることだけで分かることもある。つまり、ある言葉が何度も繰り返していたら、それがキーワードだということだ。例えば、『SASRA』では、「目（ウェジャト）」という言葉の出現頻度が非常に高い。「ウェジャト」は主人公の鷹で、エジプト語では「目」を意味する。この鷹は最初から最後までずっと主人公に危険を予告し、主の身を守る重要なキャラクターで、小説全体を貫く横糸のような存在である。

おわりに

人間のコミュニケーションと認知は情報の関連性（あるいは有意性）の最大化（maximizing）を実現するという原理に制御されている。ある情報の有意性は、その情報が所与の環境の中で生じたときに、それによって得られる効果の大小に依存する。ルビは一般的に振り仮名用の活字、また振り仮名の意味として、広く使われている。しかし、語用論の角度から考えると、いろいろ機能を持っていることを研究する学者は極めてまれだといえる。本論では関連性理論の枠組みで、ルビに注目し、その機能を解明した。

Hosei University Repository

その結果、ルビは「意味を説明する機能」、「言葉の意味を縮小する機能」、「指示の機能」、「時代・背景を提示する機能」があることが明らかになった。作者は作品の内容と主旨を読者にもっと分かりやすく伝え、自分の構築した世界へと導く。そうすることによって読者も作品を理解しやすくなるのである。

註

（1） 関連性理論は、一般的に語用論の領域に規定されている。

（2） この点については、以下の文献を参照せよ。今泉敏　2009年　『言語聴覚士の基礎知識　音声学・言語学』　第Ⅲ章　5．言語学的に見た日本語。

（3）「国語辞書－大辞泉」http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/129613/m0u/（2011年1月6日閲覧）。

（4）「国語辞書－大辞泉」http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/179967/m0u/（2011年1月6日閲覧）。

（5） Unit Vanilla　『SASRA4』　リブレ出版、2007年、167頁。

（6） 久能千明　『ボーダー・ライン』　角川書店、2007年、158頁。

（7） 翟东娜・潘钧　『日本語概論』　高等教育出版社、2008年、68頁。

（8） 久能、前掲書、37頁。

（9） 本節の内容は、主として新井（2006）の研究成果を参照している。

(10) われわれの日常会話においては、数多くの会話のやりとりが身の回りに起こっている。会話の隙間を埋める言外の意味を「会話の推意」と呼んでいる。

(11) 話し手と聞き手が言語伝達において協調すべきである、という原則が「協調の原則」である。

(12) グライスの理論は、一つの根本原則から導き出される4つの公理にそって展開される。すなわち、①質の公理、②量の公理、③関係の公理、④様態の公理、である。

(13) 山梨正明「語用論のダイナミズム」（『語用論研究』第2号、2000年）は、関連性理論の特徴を、「（ⅰ）発話文と文脈にかかわる情報は、話し手（ないしは聞き手）のモデル内の記号的表象を媒介として処理される、（ⅱ）発話の理解は、発話文と文脈を規定する命題表象に一連の推論規則を適用することによって規定される、（ⅲ）発話者の意図やプランは、あらかじめ発話者のメンタルモデルのなかに存在し、聞き手は、それを発話文と文脈にかかわる情報を手がかりに推定可能である、（ⅳ）発話の解釈は、情報処理の効率性と文脈効果にかかわる関連性の規則ないいま原別によって支配されている、（ⅴ）意図、プラン、知識表象等は、対人関係、状況等の社会的な要因や文化的な要因から独立して、個人のメン

Hosei University Repository

タルモデルのなかに実体として存在している」と整理する。

(14)　神戸市長田区公立保育所編　『かたつむりがはだかんぼや』、1989年、356頁。

(15)　下道省三　「関連性理論による子どものことば（発話・会話）の分析（その３）」『甲子園短期大学紀要』第28号、2010年、31－39頁。

(16)　久能、前掲書、203頁。

(17)　高山しのぶ　『あまつき』　一迅社、2005年、表紙。

(18)　Sound Horizon　『エルの楽園』、東京ベルウッドレコード、2005年。

(19)　Unit Vanilla、前掲書、186頁。

(20)　中村その子　『日本語キャッチコピーの省略性とあいまい性～～語用論理論との関連において～～』　多摩大学教員の研究成果の発表会、2010年。

(21)　久能、前掲書、23頁。

(22)　遠藤周作　『女の一生』　朝日新聞社、1982年、204頁。

(23)　Sound Horizon、前掲同所。

(24)　久能千明　『ターニング・ポイント』　角川書店、2005年、55頁。

(25)　同、190頁。

(26)　同、199頁。

(27)　同、210頁。

(28)　同、37頁。

(29)　同、42頁。

(30)　同、51頁。

(31)　遠藤、前掲書、９頁。

(32)　同、50頁。

Hosei University Repository

Function of Ruby in the Perspective of Relevant Theory

REN Li

Department of Japanese, School of Foreign Languages, Changchun University of Science and Technology, People's Republic of China

Abstract

Nowadays Relevant Theory, widely applied in many fields including anthropology, psychology and linguistics, has greatly influenced the advancement of human civilization. This thesis analyzes the function of ruby within the perspective of Relevant Theory.

Ruby has not only the function of phonetic transcription but also some other functions within Relevant Theory: 1 explanation, 2 semantic constriction, 3 deixis, 4 cue of era and settings. Deixis can be further categorized into present deixis and recollected deixis.

Analyzing ruby is very helpful to understand the content of work from a Relevant Theory perspective. Thus, readers can grasp the intention of the writer.

Key words: *Relevant Theory, ruby, explanation, explanation, deixis, cue of era and settings*

一
二
三